



過去の利用者さんの声

2014年3月8日（土） ドキュメンタリー映画「普通に生きる」！

こうちゃんより

昨年7月に「NPO 法人えんじょいんと」として登録されて活動をされている団体の行事だった。

重度障害を抱えた人たちを中心に様々な活動をされ、このたび「ドキュメント映画」としていきさつなど映し出された。

障害を抱えている人、その周りの人達も「特別扱いを望んでいる訳でない」！

本当に望んでいるのは「普通に生きること」！

特別支援学校や施設で生活している人も、「いずれは親元を離れて社会に溶け込んでいかないといけない時期がくるだろう！」と成長過程を振り返りながらみんなに伝えられた。

そのためにも「福祉制度の充実」をしっかりと根づけて、「安心安全を考え、個々にあった人生を磨ける場を・・・」と、「デラートの施設建設をお願いしてきた運動」を映画の中で映し出された。

「えんじょいんと」の理事長をされている人も障害を抱えられているようで、出産後「娘が生まれたが、産声を上げなくて心配した」、「痙攣が続いて統合周産期母子医療センターに移された」と当時の様子が資料に書かれていた。

2日後初めて、保育器に入れられて眠っている我が子を見たとき、「この子が無事生まれてくれるなら命を落としても構わなかったのに・・・」と思ったという。

やっと泣くようになったのは、生後2週間を過ぎてからで、母乳は搾乳器で絞ったものを鼻からカテーテルで注入していったという。

現在に至るまで、夫婦共働きで来られたようで、何度も「仕事を辞めて育児に専念したほうがいいのでは・・・」と周囲の人から言われたが、「働く道」を選んだという。

ドキュメント映画を見て強く感じたことは、親は子どものためなら自分の命を捨ててまで「子どもの成長を望んでいるのだ」と痛感させられた。

また、「死にたい」と何度も思われたようだが、子どもから学ばされたことも多くあって、今は感謝しているとのことだった。